

交通事故の低減に向けた 関係諸団体との連携

安全運転普及活動を行っている関係諸団体や業界の方々とも積極的に連携を深め、交通事故の低減に向けて取り組んでいます。

交通事故未然防止に向けた「SAFETY MAP」の活用

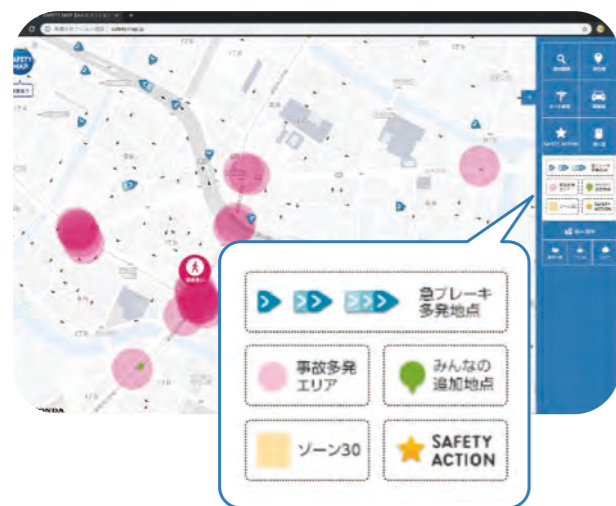
2013年3月より一般公開を開始した「SAFETY MAP」は運転者だけでなく、歩行者・自転車利用者等も含めたすべての交通参加者が、パソコンやスマートフォンで自由に活用でき、その地域で暮らす皆様の声でつくられていく安全マップです。個人の利用だけでなく、交通事故防止に活用する企業・団体も増えています。

今年は愛媛県警察本部、茨城県警察本部と「交通事故防止対策の推進に関する協定」を締結。「SAFETY MAP」に表示さ

れている急ブレーキ多発地点情報のデータ提供や交通安全教育に活用できる事故分析資料の提供を受けるなど、交通事故防止に向けて相互に協力していくこととなりました。このような協定を本年の2県を加え、7都府県の警察本部と締結したほか、広島県庁や広島県警にもデータを提供しています。

警察、県庁との連携

- 2016年 大阪府警察本部(協定締結)／長野県警察本部(協定締結)
- 2017年 千葉県警察本部(協定締結)／警視庁(協定締結)
広島県庁(データ提供のみ)／広島県警察本部(データ提供のみ)
- 2018年 滋賀県警察本部(協定締結)
- 2019年 愛媛県警察本部(協定締結)／茨城県警察本部(協定締結)



パソコン用「SAFETY MAP」(画面はイメージ)。日本中を走る Honda インターナビ(双方向通信型のカーナビ)搭載車から通信で送られてくるデータをもとにした急ブレーキ多発地点情報をはじめ、事故多発エリア情報やゾーン30情報などを表示。パソコンやスマートフォンで自由に閲覧でき、閲覧者が交通安全上危険だと感じた場所に投稿することも可能。詳細は以下の Web ページを参照ください。

<https://safetymap.jp/>



現場改善事例(千葉県千葉市)



改善前: 停止線、横断歩道のかすれ



改善後: 停止線を倍幅化し、横断歩道を補修

教習指導員のレベルアップと 交流の場を提供

全国の自動車教習所教習指導員の方々の自己研鑽への動機づけや情報交換と交流の場としていただくことを目的に、2001年に始まった「全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」(後援:(一社)全日本指定自動車教習所協会連合会)は今年で19回目を迎えました。会場となった鈴鹿サーキット交通教育センターで、全国78校135名の教習指導員の方々が2日間にわたり競技に取り組みました。さらに実車競技に加え、安全な実技講習会運営について学び合う実技指導員についてのグループディスカッションも実施しました。

また、この大会には審判員として全国20校23名の教習指導員の方々にご協力いただき、ノウハウの提供も行っています。



大型二輪部門競技



四輪部門競技



実技指導力向上のためのグループディスカッション

関連団体などの 活動も積極的に協力

二輪車安全運転全国大会

「二輪車安全運転全国大会」は(一財)全日本交通安全協会の主催で、1968年から毎年開催されてきましたが、2017年の第50回をもって終了となりました。その後、1年の休止を経て、(一社)日本二輪車普及安全協会が主催者となり「二輪車安全運転全国大会2019」として8月3日、4日に鈴鹿サーキット交通教育センターで再開。同大会は、二輪運転者の安全運転技能と交通マナーの向上を図ることにより、交通事故を防止するとともに、二輪車の普及、安全利用を促進することをめざしています。再開にあたっては、安全運転技能を、より正確に評価できるよう競技内容や採点基準の見直しについて積極的に協力しました。来年以降も継続して開催される予定です。



34都道府県から122名の選手が参加



低速時の運転技能向上を目的に設けられた課題「極小バランス」

高校生「三ない運動」廃止・見直しの支援

埼玉県では今年度から「三ない運動(免許を取らせない・バイクを買わせない・バイクに乗らせない)」を廃止しました。これに合わせて、バイクの運転や購入を届け出た生徒を対象にした安全運転講習が始まり、講習の運営にも協力しています。今年度は埼玉県内で6回開催され、これまで「三ない運動」のなか、すでに免許を取得し乗っていた高校生にも積極的に参加いただきました。「三ない運動」の見直しについては三重県でも検討委員会が立ち上がり、協力を行いながら議論を進めるなど委員として参画しています。



埼玉県での二輪に乗車する高校生を対象とした安全運転講習

高齢運転者や高校生の交通安全教育に協力

自動車業界団体である(一社)日本自動車工業会で構成された委員会活動を通じて、高齢運転者や高校生向け自転車交通安全教育の活動に協力しています。

特に50歳以上の四輪運転者向け「シニアドライバースクール」((一社)日本自動車連盟主催、(一財)全日本交通安全協会等協力)では、高齢運転者に安全な運転を続けていただくため、Hondaとして座学や実技プログラムのノウハウ、安全運転サポート車の提供に協力しています。

また、自転車に乗る高校生とクルマの共存をめざしたブレドライダー教育は、(一財)日本交通安全教育普及協会を通じて県教育委員会や警察署、指定自動車教習所協会等と協力し、高校生に対して自転車の交通安全教育を行っています。そのなかで、生徒が主体的・協力的に交通安全を考えることができる教育手法や実技講習等、普及拡大と定着に向けた仕組みづくりを支援しています。



シニアドライバースクール